

令和6年度大阪府三島薬事懇話会 議事概要

日時：令和6年 12月 16日(月)午後2時から午後4時

開催場所：大阪府茨木保健所 5階 大会議室

出席委員：委員総数 11名のうち7名出席

三宅委員、加藤委員、石田委員、山本委員、西原委員、松浦委員、小西委員

■議事1 会長の選出

互選の結果、加藤委員が会長に選出された。

■議事2 災害時の医薬品等の確保体制の整備状況等について

資料に基づき、大阪府健康医療部生活衛生室薬務課から説明。

説明後、各地域薬剤師会及び大阪府薬剤師会から災害対応の取組みについて報告。

(意見等)

- 各市町村や保健所で把握している人工呼吸器や在宅酸素療法等で自宅から避難できない重度の難病患者の情報を予め地域の医療者に共有することはできないか。
- 災害時だけでなく、コロナのようなパンデミック時の薬の流通についても対策が必要。
- 各市の薬剤師会が行っている対策、大阪府が行っている対策、災害拠点病院で行っている対策等を、それぞれ公開し、共有することが重要である。
- 近年、紙ベースの情報からクラウド型のデータベースに変わってきたが、能登地震の際も保険証やおくすり手帳を持たずに避難している方も多く、必要な情報をどう見るかが大きな課題だった。医薬品情報だけでなく、その人がどういう医療を受けたいのかというACP(アドバンスケアプランニング)も含め、患者の情報を医療者がきちんと見ることができるような対策が必要。

■議事3 地域連携薬局に対するアンケート調査

資料に基づき、大阪府健康医療部生活衛生室薬務課から説明。

説明後、摂津市薬剤師会から地域の取組みについて報告。

(意見等)

- 認定薬局のリストについて、地域の医療者等に分かりやすい表示の仕方を検討してほしい。

- 認定取得によってどんなメリットがあるのか、労力対効果が見えないことが課題である。
- 認定薬局制度によって地域医療にどのような成果を目指すのか、改めてグランドデザインをしっかりと打ち出した啓発が必要なのではないか。
- 労力対効果が薄いとの意見もあるが、多職種連携を意識するようになった、外来患者の生活面にも深く注意を向けるようになったという意見があり、薬剤師としてのスキルアップや、対患者・対地域の中での薬剤師による様々な取り組みが増え、地域医療にとってプラスになっていると思う。
- 認定薬局制度の認知度の低さが課題であるため、訪問看護ステーション協会のような関係団体への周知と、府民啓発をそれぞれ積極的に進めることが重要。
- 認定の手続きの書類作成が薬局の負担となっているので、オンラインでの手続きができるようになるとよいと思う。
- 専門医療機関連携薬局の認定を志している薬局には、がん専門薬剤師になるために必要な研修への支援が必要ではないか。

■議事4 その他

(意見等)

- 薬局や医療機関の倒産件数が増えてきており、地域連携を支えている中小の街中の薬局の減少が懸念される。地域の薬局や医療機関の経営的な状況や医療費対経済効果の状況が見える仕組みが必要だと思う。

以上